

2023年3月期第2四半期 決算説明会

2022/11/15

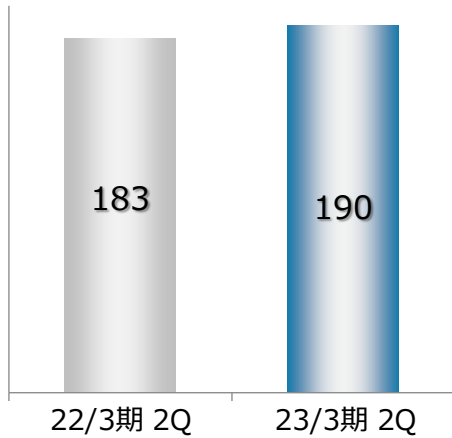
2023年3月期第2四半期 決算説明

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2022年3月期 第2四半期 実績	2023年3月期 第2四半期 実績	前年同期比
売上高	459	481	+4.9%
営業利益	35	15	▲57.6%
経常利益	34	22	▲33.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	34	15	▲54.8%

- ◆新型コロナによる行動制限緩和、円安効果、価格転嫁推進等により増収
- ◆材料費高騰、基礎研究開発費増加、棚卸評価損が膨らみ、営業利益減
- ◆経常利益は為替差益で増加

セグメント別売上高



取り巻く環境

中国ロックダウンに伴うサプライチェーン混乱
為替相場が円安基調で推移

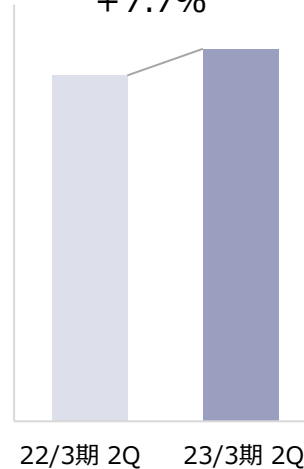
業績概況

産機市場や自動車市場の需要は底堅く売上増
労経費増や材料費高騰、不採算製品の整理に伴う棚卸評価損増で減益

内訳

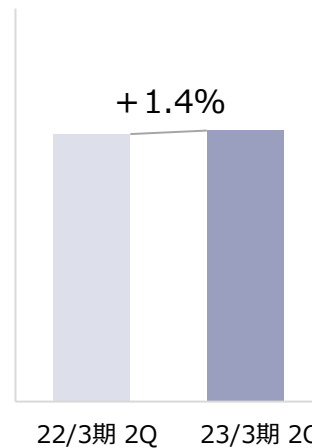
自動車

+ 7.7%



家電

+ 1.4%

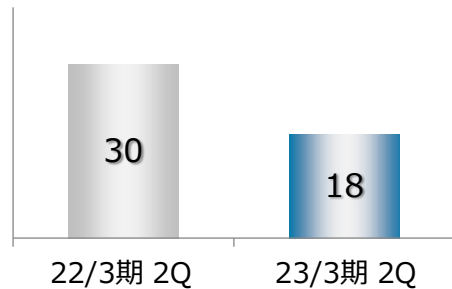


産機

+ 8.1 %

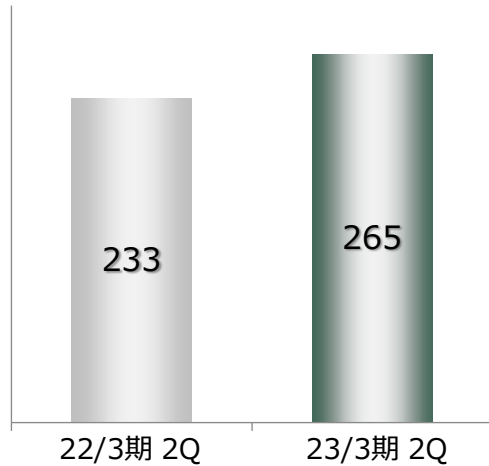


セグメント別営業利益

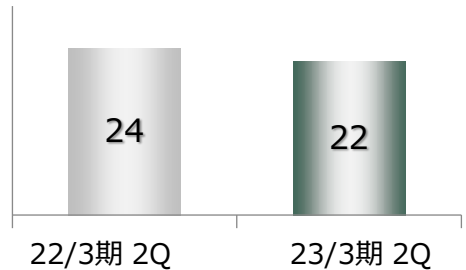


単位：億円（億円未満四捨五入）

セグメント別売上高



セグメント別営業利益



単位：億円（億円未満四捨五入）

※22/3期はセグメント組替え後の数値

取り巻く環境

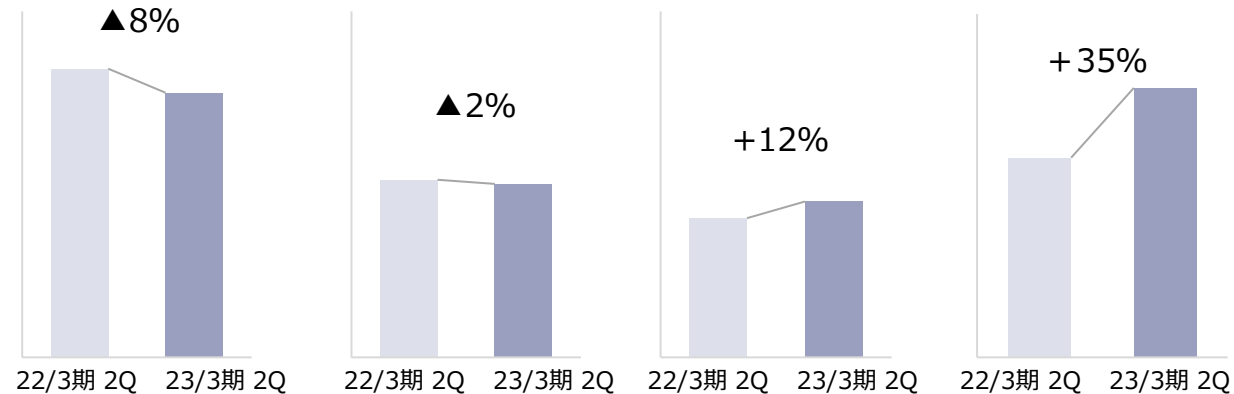
前年同期、新型コロナで低迷したインドは大幅伸長
対アジア通貨の為替相場は円安基調

業績概況

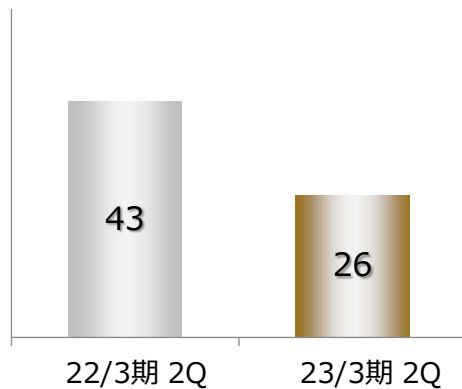
インドにおける二輪向け製品や四輪向け新製品効果により増収
増収効果があった一方、材料費・運送費の増加により減益

内訳

現地グループ会社の二輪車向け売上高（現地通貨ベース）



セグメント別売上高

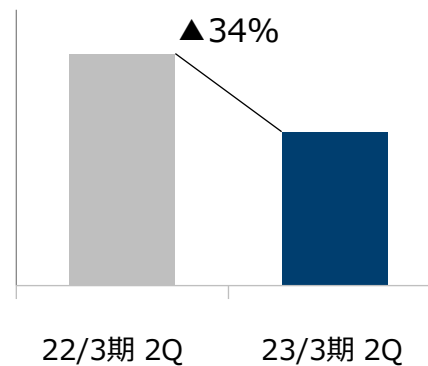


業績概況

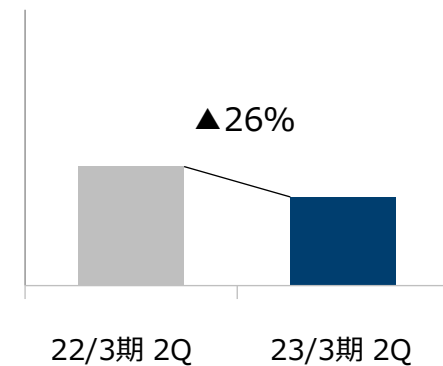
通信向け整流器は顧客の投資抑制や延伸があり減少
EV急速充電器は納期延伸、下期偏重により減少
太陽光向けパワーコンディショナは販売終息

内訳

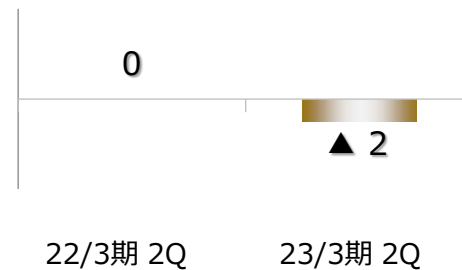
通信



EV充電器



セグメント別営業利益

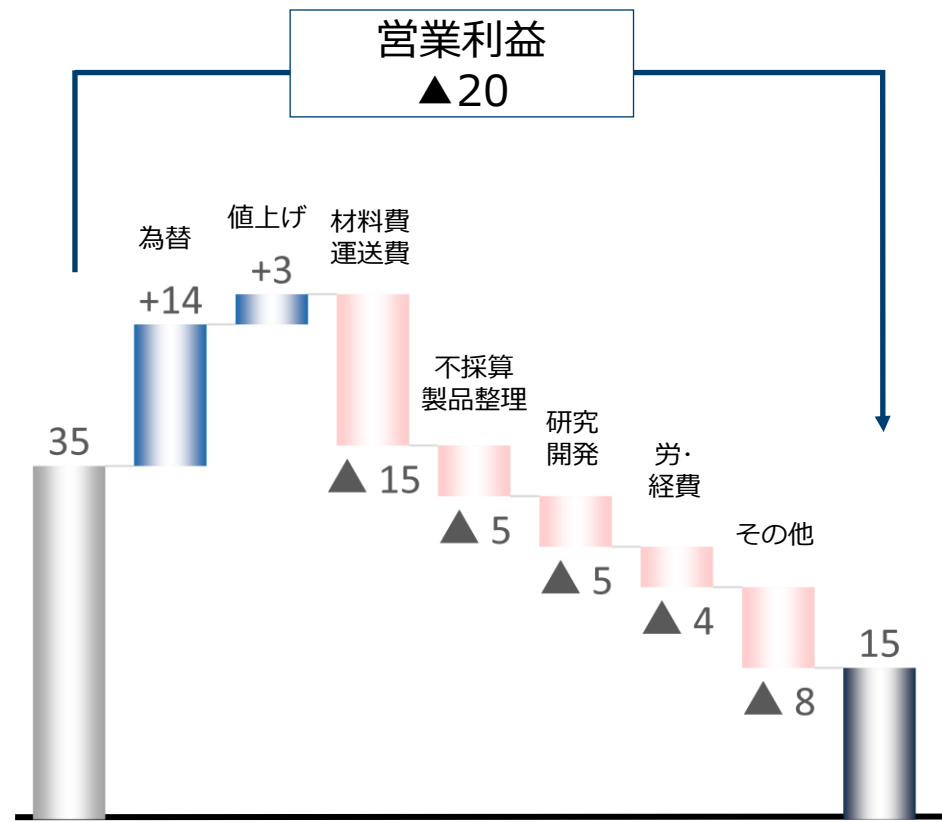


単位：億円（億円未満四捨五入）

※22/3期はセグメント組替え後の数値

営業利益の増減（前年同期比）

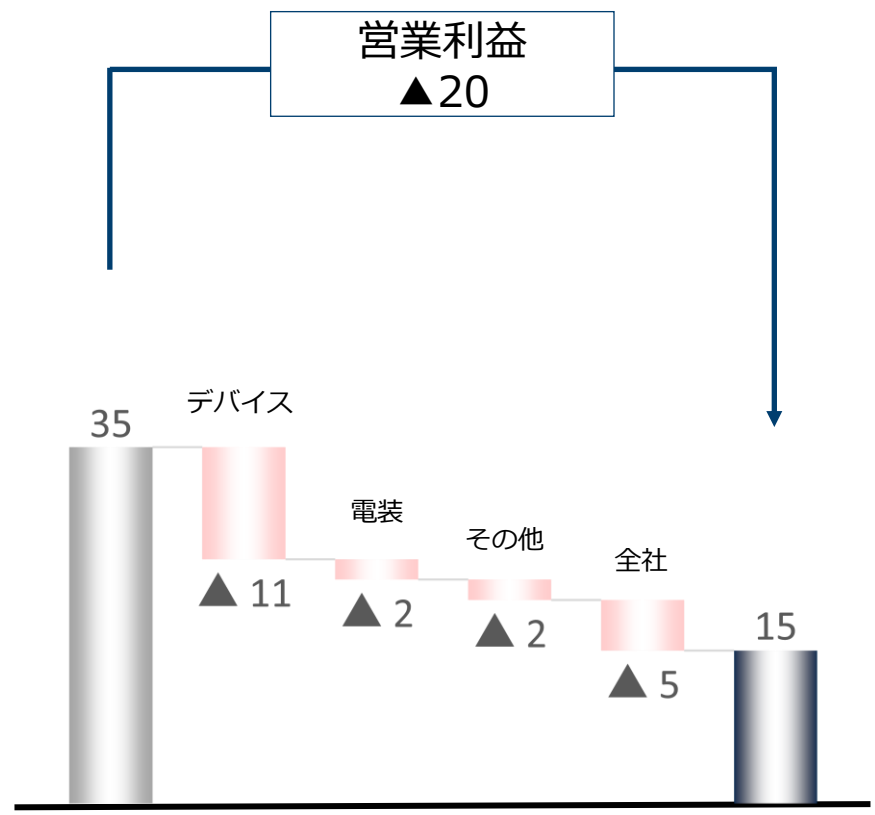
要因別増減益分析



22/3期 2Q

23/3期 2Q

セグ別増減益分析



22/3期 2Q

23/3期 2Q

単位：億円（億円未満四捨五入）

設備投資・減価償却・研究開発

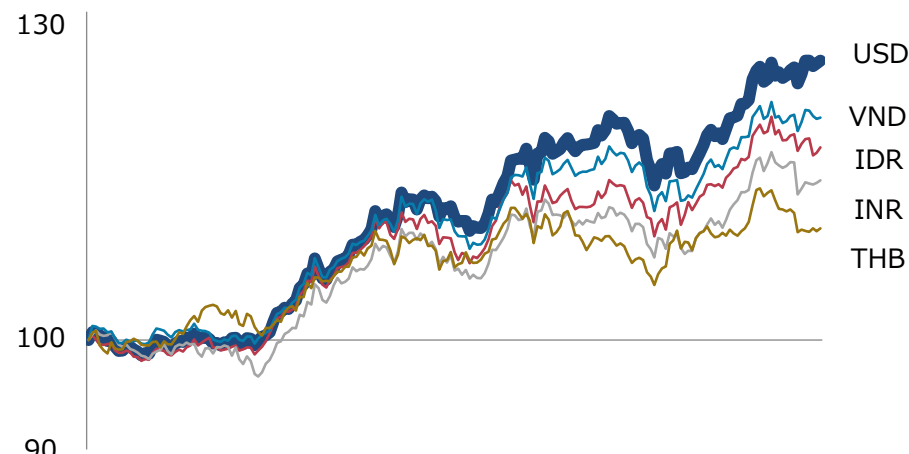
単位：億円（億円未満四捨五入）

	2022年3月期 第2四半期 実績	2023年3月期 第2四半期 実績	前年同期比
設備投資	25	23	▲7.7%
減価償却費	27	27	+1.0%
研究開発費	20	23	+19.7%

為替レート

単位：JPY/USD

	2023年3月期 第2四半期 実績
海外子会社換算レート	123.18
単体取引高レート	127.37



連結貸借対照表

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2022年3月期	2023年3月期 第2四半期	増減
流動資産	820	874	+6.6%
固定資産	531	530	▲0.1%
資産 合計	1,350	1,404	+4.0%
流動負債	298	322	+8.1%
固定負債	480	451	▲6.1%
負債 計	778	773	▲0.6%
純資産	572	631	+10.2%
総資産 合計	1,350	1,404	+4.0%
自己資本比率	42.4%	44.9%	+2.5pt.
有利子負債残高	399	399	+0.1%

- ◆総資産の増加（中国ロックダウン等の影響により棚卸資産増加）
- ◆純資産の増加（退職給付制度の改定に伴いその他の包括利益累計額増加）
- ◆自己資本比率は2.5ポイント上昇

2023年3月期 通期連結業績予想

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2022年3月期 実績	2023年3月期			前期比
		上期 実績	下期 予想	通期 予想	
売上高	922	481	593	1,074	+16.5%
営業利益	56	15	33	48	▲13.7%
経常利益	58	22	32	54	▲7.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	59	15	28	43	▲27.2%

◆売上高は半導体不足の長期化による減産影響懸念も円安効果で前期比増収

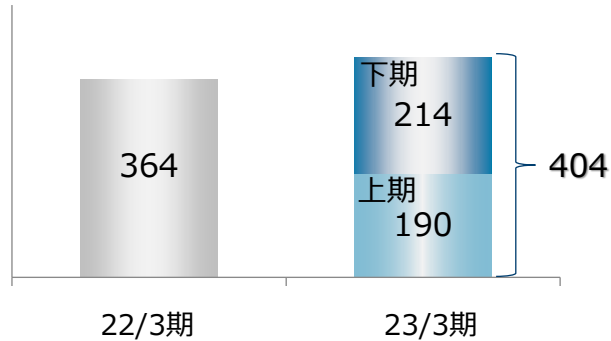
◆損益面は材料費や物流費、電気料金など生産コスト増等により減益見込み

通期連結業績予想 (セグメント別)

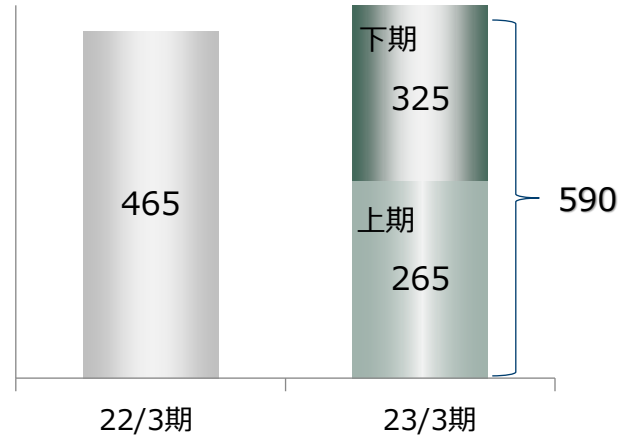
セグメント別売上高

単位：億円（億円未満四捨五入）
※22/3期はセグメント組替え後の数値

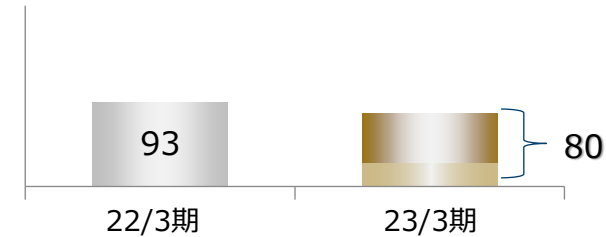
【デバイス】



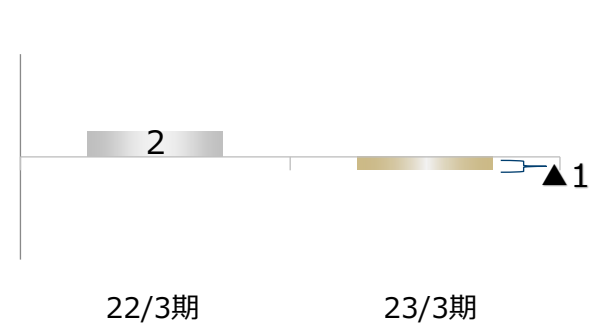
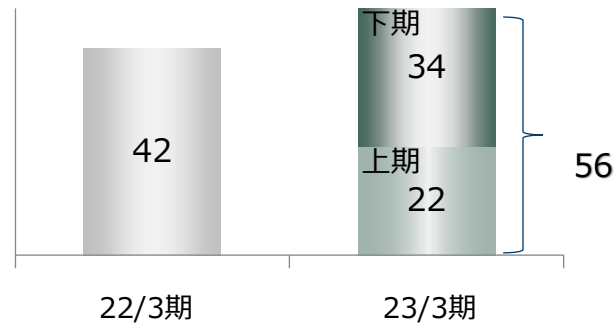
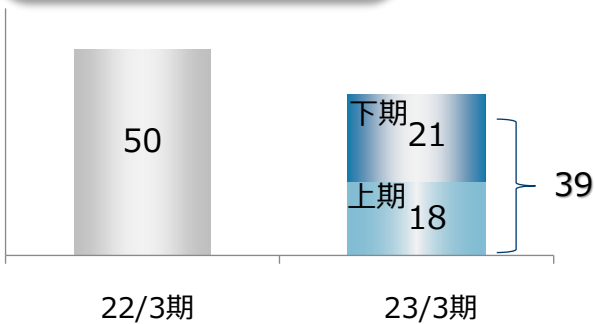
【電装】



【その他】



セグメント別営業利益

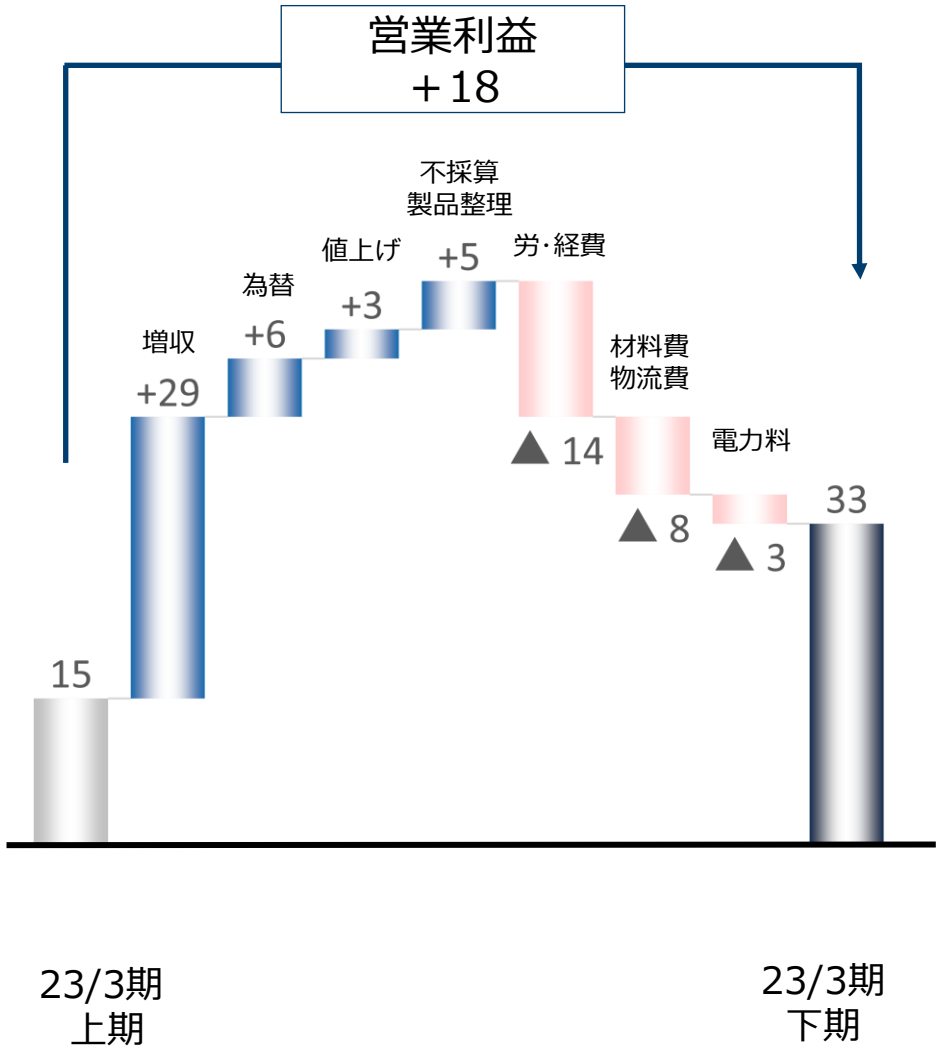


【デバイス】 売上は増収を見込むが、損益面は材料費や電気料金の上昇による費用増を想定

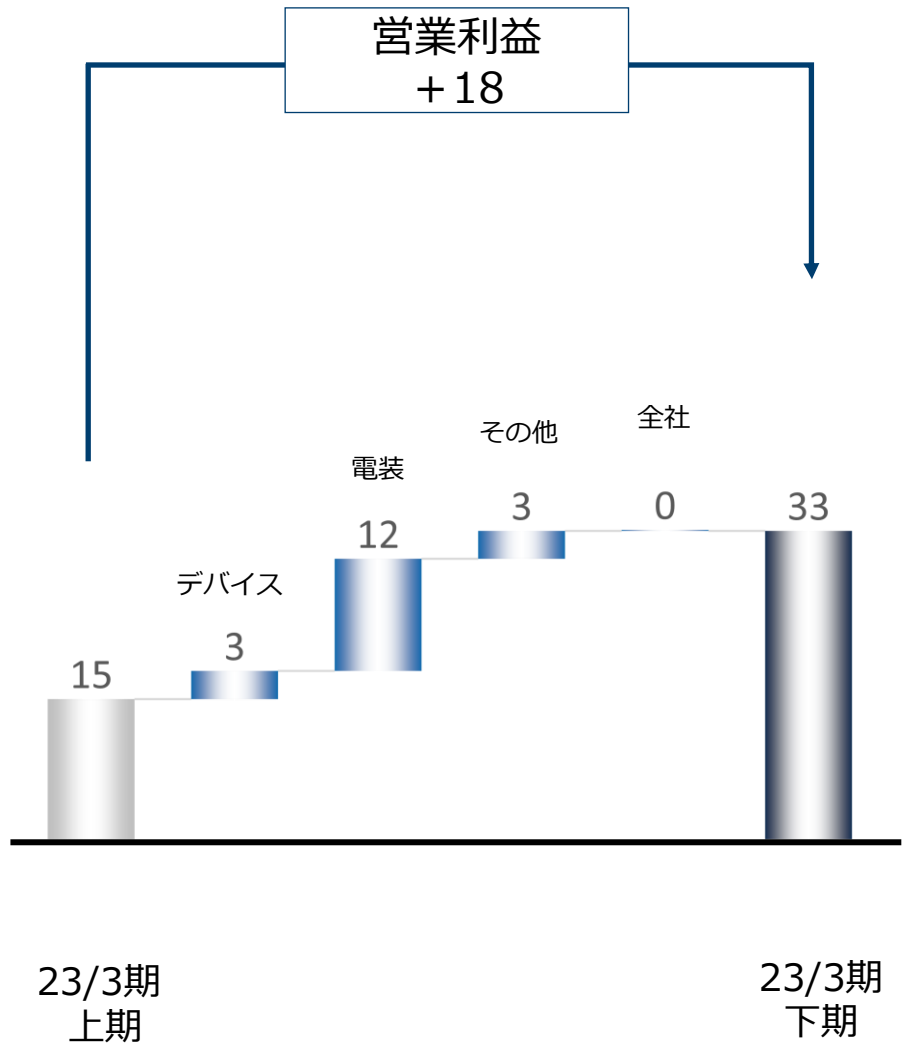
【電装】 アジア二輪市場の回復、四輪市場の新製品効果で増収、損益面は増収影響により増益を見込む

営業利益の増減（上期対下期）

要因別増減益分析



セグ別増減益分析



単位：億円（億円未満四捨五入）

設備投資・減価償却・研究開発

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	前期比
設備投資	53	62	+ 16.9%
減価償却費	55	59	+ 7.0%
研究開発費	41	50	+ 22.6%

為替レート

下期の為替レート前提は、

1USドル = 135円（期初想定は124円）

配当金

2023年3月期期末配当金予想は、

130円（前期比 + 30円）

トピックス

TCFD提言に基づく情報開示

- ・ TCFD（※1）の提言に賛同を表明
- ・ TCFDコンソーシアム（※2）に加盟



- ※1 Task Force on Climate-related Financial Disclosures（気候関連財務情報開示タスクフォース）の略。金融安定理事会（FSB）が設置。2017年6月に最終報告書（以下「TCFD提言」）を公表。
- ※2 企業の効果的な情報開示や開示された情報を金融機関などの適切な投資判断に繋げるための取り組みについて議論が行われる場として2019年5月27日に設立。経済産業省・金融庁・環境省がオブザーバーとして参加。

適宜、気候関連情報の開示を進め、「持続可能な社会の実現」「更なる企業価値の向上」へ

オンラインセミナー配信（メーカー技術者向け）

「今から始めるLLC電流共振回路設計」
～基本動作と特徴を理解する～

「回路設計者のためのダイオード教室」
～ダイオードってなに？～



販売促進やブランディングにつながる活動を推進

企業ミッション

**「エネルギーの変換効率を極限まで追求することにより、
人類と社会に貢献します。」**

ご清聴ありがとうございました。

本資料に記載した将来に関する見通しは、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、
多分に不確実な要素を含んでおります。
従いまして、実際の業績は、業況の変化などにより記載の見通しとは異なる結果となる可能性があります。